

地域再生計画（地方創生道整備交付金）中間評価調査

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県、飯田市	地域再生計画名	「山・里・街の魅力あふれる豊かな地域づくり」計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	事業期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	飯田市総合政策部長

①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況	指標		基準値		中間目標値			目標値		中間評価	達成状況に関する評価
	指標 1	年間間伐面積の拡大	基準年度	年度	中間実績	基準年度	年度	中間実績			
	指標 1	年間間伐面積の拡大	420ha	H25	468ha	H29	417ha	500ha	H31	△	・間伐等の森林整備は天候等に左右されるため目標値を下回ったが、概ね達成できる見込みである。
	指標 2	観光入込客の増加 ・上村地区 ・登山客数	126,000人 5,900人	H25	132,000人 6,200人	H29	126,300人 5,050人	136,000人 6,400人	H31	△	・下栗地域の周遊道路の整備により、上村地区内でもしらびそ高原の観光入込客を下栗の里へ導く効果が得られている。 ・地域との協働で取り組む観光施策が観光入込客の増加につながっている。
	指標 3	アクセス改善 ・林道松川入線 ・林道河合線	100分 140分	H26	95分 130分	H29	95分 130分	90分 130分	H31	○	・林道整備やそれに通じる市道のアクセス向上により、目標達成できる見込みである。
	指標 4	体験プログラム利用者数	42,600人	H25	44,000人	H29	36,500人	45,000人	H31	△	・全国的に「体験学習」の位置づけが高まり、地域振興策として体験教育旅行受入れを進める地域が増えてきたことから、中間年度の目標値達成には至っていないが、実施主体（㈱南信州観光公社）の体制強化を図ったことにより、概ね目標値を達成できる見込みである。
	指標 5	林道保全（老朽化）対策推進率	0%	H26	5%	H29	4%	12%	H31	△	・林道の安全安心な通行確保のための老朽化対策により、概ね目標値を達成できる見込みである。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の発現状況	指標 1										
	指標 2										
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度（H29）	最終実績見込み						
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	2,600m	746m	1,346	上村150号線及び上村23号線の整備により、アクセス改善と交通安全の確保が図られ観光入込客の増加に繋がっています。尾林八ノ倉線及び中山線については、地権者との用地交渉や保安林解除手続きに不測の日数を要したことにより、全線の事業用地確保の見通しが立っていない。そのため、整備延長が減の見込みとなっていますが、整備済み区間による渋滞緩和やアクセス改善により、周辺地域からの交流人口の増加と地域産業の振興に繋がっていると考えています。このことから引き続き事業を実施します。						
	林道整備事業（整備延長）	8,645m	4,028m	7,848	計画した林道の整備により、アクセス改善と森林整備が円滑に進められています。また、通行の安全確保が図られることにより、観光入込客の増加に繋がっています。このことから引き続き事業を実施します。						
	うち林道の保全対策4路線	242m	32m	179m	計画した林道の保全対策（橋梁保全）により、通行の安全確保と森林整備が円滑に進められています。このことから引き続き事業を実施します。						
その他の事業	(1)-① 森林ふれあい事業『松川の清流と自然を訪ねて』	森林自然環境の中で楽しみながら、森林とふれあえるイベントを実施	間伐作業体験など松川の水源地で年1回開催しました。住民が主体的に間伐作業体験イベントを通じて、森林を大切に思う市民を育み、主体的に森林保全に取り組む市民の育成につながっており、今後も継続実施します。								
	(1)-② 飯田市育樹祭	実体験を通じて森林整備や治山事業の大切さを学ぶ機会とする。	育樹祭・民間団体による間伐体験作業をそれぞれ年1回実施しました。育樹祭は、小学生や公募市民らも参加し、間伐体験や記念品制作を通じて森林の魅力や大切さを肌で感じる事ができたことから、今後も継続実施します。								
	(2) 南信州グリーンツーリズム推進事業	農村資源を生かしながら、農家民泊や市民農園など総合的なグリーン・ツーリズムを推進	・㈱南信州観光公社と連携し、体験教育旅行、訪日外国人旅行者に、農家民泊をはじめとする飯田を楽しむ体験プログラムを提供しつつ、受入体制づくりを進めています。 ・農家民泊受入農家等のインバウンド観光も含めた研修会等の開催と支援に取り組んでいます。 ・平成29年12月構造改革特別区域計画「南信州飯田果実酒特区」の認定を受けました。今後、小規模なサイダーやワイナリーを設置し、当地域の誇る高品質な果樹を用いた果実酒の製造により、新たな特産品として室の高い「おもてなし」のメニューを開発し、観光、とりわけグリーンツーリズムの振興を通じて地域の活性化を図っていきます。								

	(3)-① 山岳エコツーリズムの育成	登山者の動向把握、山岳資源の保全と活用のルール検討、登山案内所機能の整備、宿泊や交通等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコエコパーク・ジオパークエリア4市町村の連携により南アルプス山岳高原観光の誘客促進を図りました。また、遠山郷においては遠山森林鉄道の資料及び道具類・遺構群が2017年度林業遺産に認定されました。 ・南アルプス登山口（聖岳・光岳）については、平成29年7月からタクシーなどを利用した2次交通が開始されました。引き続き観光誘客の促進を図ります。
	(3)-② 地域観光プラン作りの推進	飯田市及び南信州全域を対象に、地域資源（人、もの、場所、こと）を掘り起こし、地域の魅力を発信するための観光プラン作りを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田の暮らしや文化、祭、伝統芸能等、飯田ならではの素材を活かしたツアーを実施し、誘客を図りました。 ・信州DCをはじめとし、品川や渋谷等、首都圏における飯田の情報発信拠点や観光情報誌等を活用し、信州飯田の知名度向上に取り組みました。今後も継続して取り組みます。 ・道の駅遠山郷を核とした遠山郷の一体的な観光振興に向けて、遠山郷観光協会、榊上村振興公社、（一財）飯田市南信濃振興公社と連携し、「地域がつくるツアー」に取り組み発信しました。
計画外で独自に実施した事業	宇宙教育推進事業「宇宙留学サマーキャンプ」	遠山郷においてH28から小学生を対象とした宇宙教育に関する2泊3日の集中講義を開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙留学サマーキャンプを通して、宇宙教育に関する学習だけでなく、集団での共同生活における小学生のコミュニケーション能力等の向上がみられるとともに、遠山郷の自然や資産にふれる機会に繋がっています。また、開催地区との交流も行なわれています。
④評価方法	必要な調査を実施し状況を把握するとともに、地域再生計画評価会議を開催し、検討等を行なった。		
⑤中間評価の公表方法	飯田市ホームページに掲載		
⑥計画全体の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備の総合的な実施による交流人口の増大を一つの目標に据えている。用地交渉などの影響もあり整備量は伸びていないものの、観光入込客数は（上村地区：「ハイランドしらびそ」及び「下栗の里」）平成21年度には約67,000人であり、平成25年度には約126,000人と約2倍に増え、その後も比較的多くの観光入込客があり平成29年度では126,300人となっている。更なる交流人口の増を図るため、南信州グリーンツーリズム推進事業や山岳エコツーリズム事業など推進しているが、すぐには山間地域の観光・交流人口の大幅増とまでは至らない状況である。 ・引き続き、木材搬出の安全確保や森林整備、間伐等施業の効率化を図るとともに、市民参加型の「森林づくり」を目指し、地域の観光資源を効果的に発信して行きたい。 		
⑦今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域再生計画では、市道整備において用地交渉の難航や保安林の解除など、円滑に整備が進まない路線があり当初計画の整備延長までには至らない見込みである。一方、懸案とされる箇所が整備が進捗しており、観光・交流人口については、大幅増とまでは至らないが整備効果も出ているため、本計画の一部計画の変更を行い、整備量及び事業費を見直し今後の事業を推進していきたい。 ・遠山地区（飯田市上村・南信濃）は合併以来人口減少に拍車がかかり、合併以前に比べ約30%人口が減少した。しかし近年、住民の地域振興意識の高まりにより、観光客が増加している。平成26年6月に南アルプスユネスコエコパークが登録されたことを受け、さらに自然環境を活かした山岳観光にも力を入れ、交流人口のさらなる増加を目指すとともに、地域資源を活用した産業振興に住民と協働で取り組み、定住人口を維持していきたい。また、この地域は土砂災害が多いことから、林道千遠線の整備による災害時の迂回路としての活用を図りたい。 ・森林を活用し木質バイオマスエネルギーを利用することで、新たな雇用創出と地域経済を活性化し新規就労者や林業労働者の確保を進めたい。また、木質バイオマス資源に関しては現状の木質ペレット燃料の需要創出を継続するとともに、林業関係者と協力し、森林資源の循環利用を理念として未利用材の有効活用の検討をさらに進めていく必要がある。 		